

FX Weekly Review

(週報)

作成日: 2012年3月26日

主要通貨

先週のレンジ(2012年3月19日-2012年3月23日)

	始値	高値	安値	終値	変化率%	
USD/JPY	83.36	84.10	81.97	82.33	-1.24	JPY (1USDあたり)
EUR/JPY	110.27	111.43	108.49	109.26	-0.92	JPY (1EURあたり)
GBP/JPY	132.41	133.48	129.96	130.59	-1.37	JPY (1GBPあたり)
AUD/JPY	88.33	88.56	85.17	86.13	-2.49	JPY (1AUDあたり)
EUR/USD	1.3228	1.3293	1.3134	1.3270	0.32	USD (1EURあたり)
GBP/USD	1.5884	1.5923	1.5770	1.5866	-0.11	USD (1GBPあたり)
AUD/USD	1.0594	1.0625	1.0333	1.0464	-1.23	USD (1AUDあたり)

USD: アメリカドル, EUR: ユーロ, GBP: イギリスポンド, AUD: オーストラリアドル, JPY: 円
始値: 月曜日東京時間午前9時 終値: NY時間午後5時 変化率: 一週間の始値から終値までの変化率
なお、上記レートは実際のお取引のレートとは異なります。

アメリカドル

<先週の動き>

アメリカドル(以下、米ドル)は、対円では、週初は利食いなど米ドル買いの調整から下落し83円02銭を付けたが、下値も堅く83円台前半でもみ合いとなった。20日(火)には、全般的に米ドル買いの動きから83円80銭近辺まで買い戻され、21日(水)にはユーロや他通貨が対円で上昇したことから、米ドルも上昇し84円10銭を付けた。しかし、その後発表された米中古住宅販売件数が459万戸と予想(462万戸)を下回ったことや、バーナンキFRB議長が「エネルギー価格の上昇は個人消費を抑制し米経済を弱める恐れがある」と指摘したことを受けて、米ドルは83円30銭近辺まで下落した。22日(木)に発表された日本の2月の貿易収支は329億円の黒字と赤字予想(1200億円の赤字)に反し黒字となったことから、米ドルは83円15銭近辺まで下落、海外市場では83円を割り込み、82円33銭まで下落した。23日(金)発表の2月の米新築住宅販売件数が31.3万件と予想(32.5万件)を下回ったことを受けて、一時82円割れまで下落した。週ベースでは1.24%の下落。

<今週のポイント>

29日(木)の米第4四半期GDP(確報値)が注目されるが、今週は本邦企業の年度末で、実需中心の取引か。

ユーロ

<先週の動き>

ユーロは、対米ドルでは、週初1.3145近辺まで下落したが、買い戻しが優勢となり、1.3200を上抜けするとストップロスのユーロ買いを誘発し1.3265近辺まで急上昇した。その後1.3200台を中心として上げ下げを繰り返したが、22日(木)発表のユーロ圏、ドイツ、フランスの製造業購買担当者景気指数(PMI)が低下したことを受けて、一時1.3135近辺まで下落した。しかし、その後買い戻されて1.3200台へ上昇し、さらに米新築住宅販売件数の発表を受けて1.3275近辺まで上昇した。週ベースでは0.32%の上昇。対円では、米ドルの対円での上昇やユーロの対米ドルでの上昇などから21日(水)には111円40銭近辺まで上昇したが、その後は調整されて下落、22日(木)には日本の貿易統計の発表を受けて109円90銭近辺まで下落し、さらにユーロ圏などのPMI発表を受けて、一時108円50銭近辺まで下落した。週ベースでは0.92%の下落。

<今週のポイント>

対米ドルではもみ合いか。対円では、今週は企業の年度末で、米ドル円と同様に実需中心の取引か。

イギリスポンド

<先週の動き>

イギリスポンド(以下、英ポンド)は、対米ドルでは、週初買いが先行し1.5900台を付けた。その後は1.5800台でもみ合いとなったが、21日(水)には再び英ポンド買いが強まり1.5925近辺まで上昇。しかしBOE(英中銀)金融政策委員会議事録で、2人の委員が量的緩和の拡大を主張していたことが公表されると、英ポンドは1.5820近辺まで急落した。その後1.5890近辺まで買い戻されたが、22日(木)発表の2月の英小売売上が前月比-0.8%と予想(-0.4%)を下回ったことを受けて、1.5770近辺まで急落した。しかし、その後買い戻されて1.5800台へ上昇、さらに米新築住宅販売件数の発表を受けて1.5900台まで上昇した。週ベースでは0.11%の下落。対円では、週初は米ドルの対円での動きにつられて131円40銭まで下落したが、その後、米ドルの対円での上昇や英ポンドの対米ドルでの上昇などから132円台へ上昇、21日(水)には133円50銭近辺まで上昇した。しかし、BOE議事録の公表や22日(木)発表の日本の貿易統計を受けて131円90銭近辺まで下落、さらに英小売売上の発表を受けて130円近辺まで下落した。週ベースでは1.37%の下落。

<今週のポイント>

対米ドルではもみ合いか。対円では、今週は企業の年度末で、米ドル円と同様に実需中心の取引か。

オーストラリアドル

<先週の動き>

オーストラリアドル(以下、豪ドル)は、対米ドルでは、週初1.0600を挟んでもみ合いとなったが、20日(火)豪鉱山会社が、中国の鉄鉱石需要について鈍化しつつあると指摘したことを受けて、中国の景気が減速するとの懸念から豪ドル売りとなり1.0450近辺まで下落、21日(水)には1.0420近辺まで下落した。22日(木)には、HSBCの3月の中国購買担当者景気指数(PMI)が48.1と発表になり、前月の49.6から低下したことから、豪ドルは1.0370近辺まで下落、海外時間には1.0330近辺まで下落した。しかし、その後買い戻されて1.0400台へ上昇、米新築住宅販売件数の発表などを受けて1.0400台後半まで上昇した。週ベースでは1.23%の下落。対円では、週初87円80銭近辺まで下落したが、その後買い戻されて88円60銭近辺まで上昇した。しかし20日(火)には中国の景気減速懸念から87円30銭近辺まで下落、21日(水)には88円10銭近辺まで買い戻されたが、その後反落し22日(木)には日本の貿易統計の発表を受けて86円90銭近辺まで下落、さらに中国PMIの発表を受けて86円30銭近辺まで下落し、海外時間には85円30銭近辺まで下落した。週ベースでは2.49%の下落。

<今週のポイント>

先週は一時1.0330近辺まで下落したが、1.0400台後半まで戻して引けた。1.0400台を中心とした取引か。

2012/2013年の為替予測

	2012年6月末	2012年9月末	2012年12月末	2013年3月末	
USD/JPY	77.00	75.00	74.00	72.00	JPY (1USDあたり)
EUR/JPY	105.49	105.00	106.56	104.40	JPY (1EURあたり)
GBP/JPY	120.89	117.75	118.40	115.20	JPY (1GBPあたり)
AUD/JPY	79.31	75.00	70.30	68.40	JPY (1AUDあたり)
EUR/USD	1.3700	1.4000	1.4400	1.4500	USD (1EURあたり)
GBP/USD	1.5700	1.5700	1.6000	1.6000	USD (1GBPあたり)
AUD/USD	1.0300	1.0000	0.9500	0.9500	USD (1AUDあたり)

USD: アメリカドル、EUR: ユーロ、GBP: イギリスポンド、AUD: オーストラリアドル、JPY: 円

出所: HSBC Global Research作成のCurrency OUTLOOK3月号(2012年3月8日発行)

クロス円については、ユーロ/米ドル、イギリスポンド/米ドル、豪ドル/米ドルの予測レートと米ドル/円の予測レートから算出

今週の注目ポイント

ユーロ

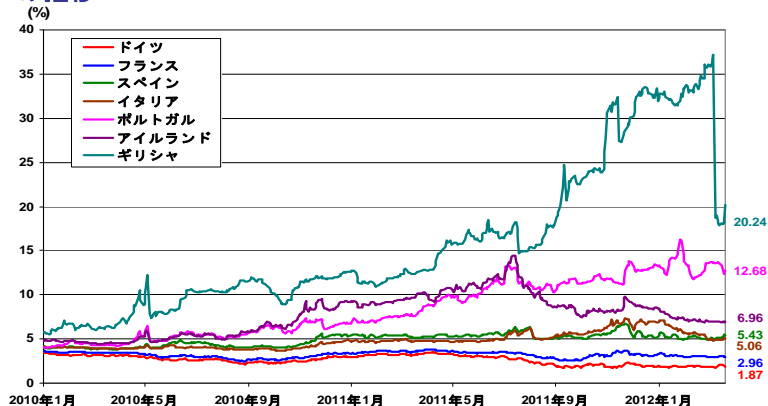
下記の図表1は、2010年1月以降のユーロ/米ドルの推移を示したグラフである。
ユーロの対米ドル相場は、2012年2月20日のユーロ圏財務相会合でギリシャ支援策が合意されると、1.3485近辺まで上昇した。その後1.3000近辺まで下落したが、現在は1.3200台で推移している。
下記の図表2は、2010年1月以降のドイツ、フランス、スペイン、イタリア、ポルトガル、アイルランド、ギリシャの10年国債利回りの推移を示したグラフである。
ギリシャの10年国債利回りは20%台、ポルトガルの10年国債利回りは12%台で推移している。先月、スペインは財政赤字の目標を以前より緩い数字に修正した。3月21日の市場では、スペインの財政再建をめぐって、スペイン10年国債利回りは5.4%に上昇した。一方、ドイツ10年国債利回りは2%を割り込み、利回り幅が拡大した。
ユーロは、ユーロ債務危機は再燃する可能性があるものの、ギリシャ情勢の最悪期は脱したとの楽観的な見方から下値も堅く、当面1.3000から1.3500のレンジで推移か。

(図表1) 2010年1月以降のユーロ/米ドルの推移

USD(1EURあたり)



(図表2) 2010年1月以降のドイツ、フランス、スペイン、イタリア、ポルトガル、アイルランド、ギリシャの10年国債利回りの推移



今週の主なイベント

- 3月 26日 米: 中古住宅販売成約指数 独: Ifo景況指数
- 3月 27日 米: 消費者信頼感指数、S&Pケースシラー住宅価格指数、リッチモンド連銀指数
- 3月 28日 米: 耐久財受注 英: 第4四半期GDP(確報値) 独: 消費者物価指数
- 3月 29日 米: 第4四半期GDP(確報値)、新規失業保険申請件数 独: 失業率
- 3月 30日 日: 失業率 米: 個人所得・消費、シカゴ購買部協会景気指数、ミシガン大消費者信頼感指数(確報値) 欧: 消費者物価指数

新興国通貨ピックアップ

ブラジルレアル(BRL)

下記の図表1は、2010年9月以降の米ドル/ブラジルレアルの推移を示したグラフである。ブラジルレアル(以下、レアル)の対米ドル相場は、2012年に入ると上昇基調となり、2月29日には、一時1USD=1.7000BRLを突破し1USD=1.6860BRLまで上昇した。しかし、ブラジル中銀が、ブラジル国内の輸出業者支援のためのレアル高抑制のためにレアル売り介入を実施したこと、3月1日には、ブラジル政府はレアルの上昇を抑えるために、国内企業が海外から融資を得る際に課税される金融取引税の対象をこれまでの期間2年から期間3年の融資に拡大すると発表したこと、さらに3月12日には、課税対象となる借入期間を最長5年まで拡大したことなどをを受けて1USD=1.8327BRLまで下落した。3月7日、ブラジル中銀は金融政策決定会合(COPOM)で政策金利を0.75%引き下げ、10.50%から9.75%とした。市場では0.50%の引き下げを織り込んでいたが、予想を上回る0.75%の引き下げだったこともレアル売りの要因となった。3月22日、マンテガ財務相は、税率引き上げや政策金利の引き下げなどレアル高抑制策により現在の相場は1年前に比べてより好ましい水準であり、レアル高抑制のための為替介入を継続すると発言した。レアルは、現在1USD=1.8100BRL台で推移しているが、当面1USD=1.7000-1.9000BRLのレンジで推移か。

(図表1) 2010年9月以降の米ドル/ブラジルレアルの推移

BRL(1USDあたり)



USD高BRL安



USD安BRL高

(図表2) 2012/2013年の為替予測

	2012年6月末	2012年9月末	2012年12月末	2013年3月末
USD/BRL	1.9000	1.8500	1.8000	1.8300

BRL(1USDあたり)

出所:HSBC Global Research作成のCurrency OUTLOOK 3月号(2012年3月8日発行)

*本レポートは、HSBC Global Researchによる情報をもとに、HSBCプレミア個人金融サービス本部ウェルスマネジメント部にて作成しております。また、データについてはトムソン・ロイターのデータをもとに作成しております。実際にお取引できるレートとは異なります。
*原則として毎週月曜日に更新いたします。

ディスクレーマー

本レポートは、お客様の投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、投資に関する助言ではなく、特定の金融商品の購入や売却を勧誘・推奨するものではありません。情報提供には細心の注意を払っておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。記載された意見は原則として当グループ独自のものであり、予告なく変更される場合があります。中には特定の第三者を情報源とする情報も含まれています。当行はこれらの情報が信頼できると考えていますが、独自に検証したわけではありません。お客様が本情報に基づいて取られた行動に起因して生じる損失や損害に一切責任を負いかねます。本レポートのチャートは過去の動きを示すものであり、将来の値動きを予想・保証するものではありません。本レポートの内容は、方法を問わずいかなる目的であっても、お客様以外の方への複製や転送等はなさないようお願いいたします。

日本におけるHSBCプレミアは、英国ロンドンに本部を置くHSBCグループの母体行である香港上海銀行を通じて提供されるサービスです。